


発達障害のある児童生徒の

よき理解者・支援者となるために

 富山県教育委員会



このような行動の原因としては、本人の努力だけでは解決できない困難さ(特性)が、深く関係していることがあります。

もしかしたら、「発達障害」かもしれません。

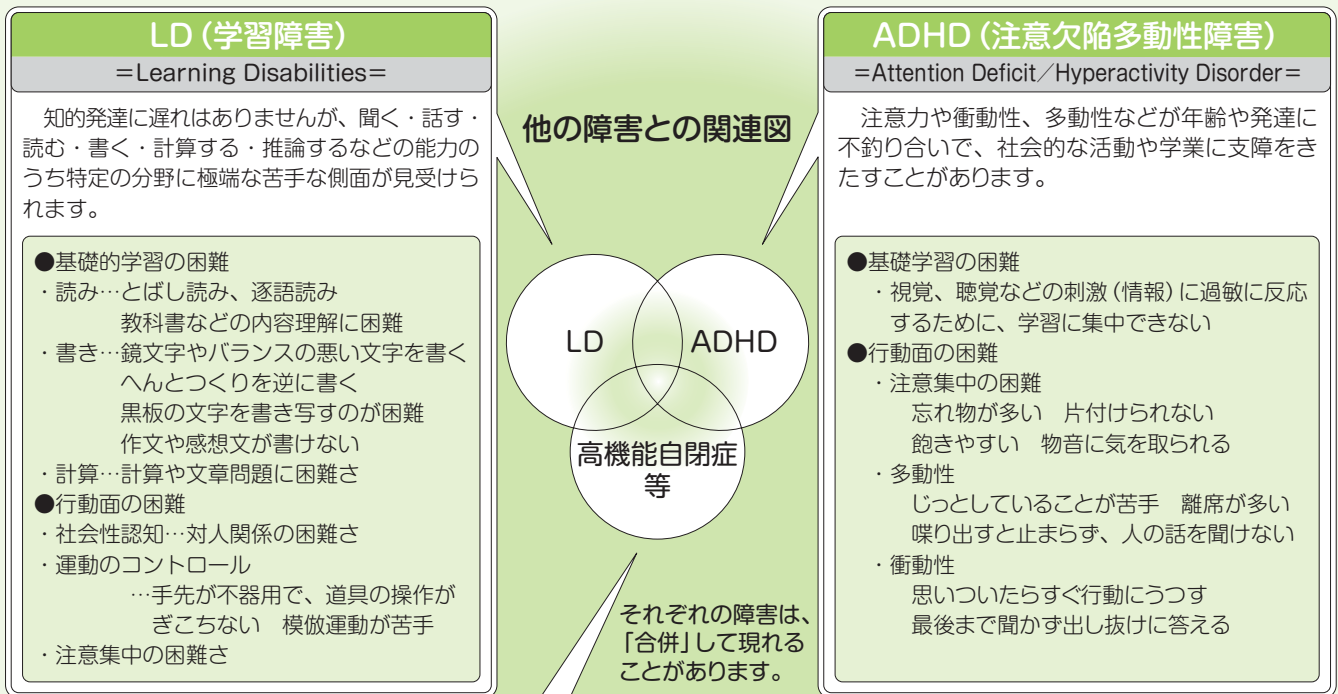
発達障害って、どんな障害…？

医学的な理解では、脳（中枢神経系）の機能不全に起因すると推測されています

この神経回路がうまく機能しないと

認知・言語・社会性・運動などの発達がさまたげられます

発達障害のそれぞれの特性は？ また、それぞれの障害との関連は？



高機能自閉症 等

高機能自閉症

3歳位までに現れ、他人との社会的関係の形成の困難さ、言葉の発達の遅れ、興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害である自閉症のうち、知的発達の遅れを伴わないもの

- 他人との社会的関係をつくることの困難さ
 - ・暗黙のルールが分からない
- コミュニケーションの困難さ
 - ・一方的に話し会話が続かない
 - ・感情を込めて話すことが不得手
 - ・相手が伝えたいことを表情や仕草から読み取ることが苦手

アスペルガー症候群

知的障害の遅れを伴わず、かつ自閉症の特徴のうち、言葉の遅れを伴わないもの

- 強いこだわり
 - ・パターン化した行動
 - ・特定の物や人、場所に強い興味
- 感覚が過敏
 - ・大きな音が苦手
(避難訓練やサイレンなどで耳をふさぐ)



- それぞれの障害名は、「特性」を示す総称で「病名」ではありません。
- 「特性」は本人の一部であって、すべてではありません。
- 成長段階における周囲の支援（かかわり方）によって、本人の状態が大きく変化します。

問題の改善を図るには、周りの人が発達障害について知ることが必要です。

学習や学校生活のつまずきの背景には

教育的な理解では、情報処理過程（認知）の機能不全に起因すると推測されます

この情報処理機能がうまく機能しないと

学習や行動につまずきが生じます

認知（情報処理過程）の流れ

外部からの刺激を受ける
情報
(声・音・光など)

〈受容機能〉

知覚する

- ・視知覚
- ・聴知覚
- ・触知覚
- ・運動覚 など

〈統合機能〉

考えをまとめる

- ・記憶 ・保持
- ・再生 ・思考
- ・イメージ など

〈表現機能〉

表現する

- ・書く ・描画
- ・読む ・ことば
- ・運動 ・動作 など

感覚が働くが、映る形は漠然としている

視知覚が働き何か分かる

視知覚や聴知覚が関係し合い読み書きへ

読み言葉・書き言葉・計算などの問題は、受容機能の不全が影響しています。

視知覚系に困難が生じると

聴知覚系に困難が生じると

●視知覚の「図と地」の知覚でつまずく

多くの人は文章を読むとき、「注目したい文字(図)」に焦点を当て、「他の文字(地)」は意識の外に置いています。

この認知に困難があると、文章を読むとき、文字が浮かび上がりません。うまく文字を取り出せないで文字が追えず、文字や行の飛ばし読みが生じます。

●空間の位置と方向、空間関係の認知でつまずく

文字を構成する線の方向や線と線との位置関係が見分けられず、よく似た文字を読み間違ったり、漢字の線の数を間違ったりします。

文字と文字、行と行の位置がどんな関係にあるのかわからないと、筆算の時に桁がずれて計算を間違ったり、黒板を写すことにも困難が生じます。

●社会性の弱さでつまずく

人間関係やその場の状況把握の困難につながります。「自分と他人を区別して知る」(社会的な認知)が弱いと、相手の表情や場の雰囲気や状況を捉えられず、言葉の表面的な意味だけで行動することが考えられます。コミュニケーションの困難さにもつながります。

●聴知覚の「図と地」の知覚でつまずく

多くの人は話を聞くと、「聞きとりたい声(図)」に焦点を当て、「いわゆる雑音(地)」は意識の外に置いています。

この認知に困難があると、聞き取りたい声と雑音が同じ強さに聞こえてくるので、苦痛に感じることもあります。また、授業での説明や集団での指示が聞き取れないことが生じます。

●音を聞き分ける「聴覚弁別」でつまずく

聴覚弁別の困難が加わると、似ている音声を聞き間違えることが多くなります。話し言葉中心の一斉授業では、聞き取れず理解できなかったり、指示された言葉の意味が理解できなかったり、周囲の動きを見てから行動するので、集団行動にも遅れがちです。

●「短期記憶」や「聴覚的記録」でつまずく

関連する言葉を含めて記憶する力の弱さ加わると、指示されたことを何度も聞き返します。また、一度に複数の用事を頼むと、実行できません。

話を聞くと同時に、言葉の情報を過去の経験と照らし合わせて思い浮かべることの弱さが、影響しています。

《発達障害について知る》

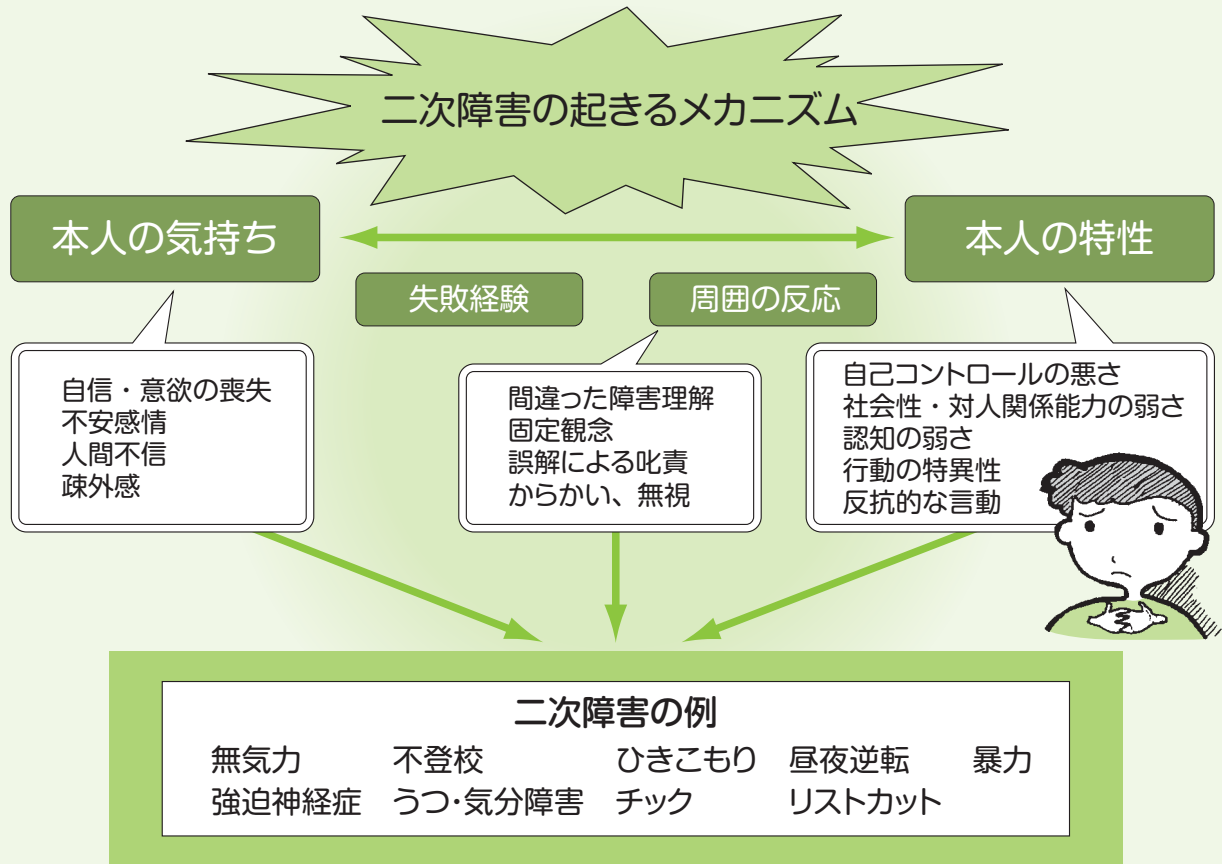
一番苦しみ悩んでいるのは、児童生徒自身です。子どもの立場に立ち、「どんなことにつまずいているのか」「なぜ、問題行動が起きたのか」など考えることが、発達障害について知るための第一歩です。

二次障害発生の要因と背景

●自己コントロールの弱さ、対人関係での社会性の弱さと、周囲の間違った障害理解が摩擦を生じさせます。

●本人の「行動の特性」が周囲とトラブルを引き起こし、悪循環の関係を生みだします。

●その結果、自信や意欲をなくしたり、自己評価が低くなったりして、不適応が進行し、二次障害が生じます。



二次障害を解決するためには、大変なエネルギーを必要とします。
その前に適切な支援を行い、予防することが大切です。

支援の第一歩は、児童生徒の行動を理解すること

- ・「行動」には必ず「背景」があります。
- ・一見「問題に見える行動」は、自分を守るため、周囲と関係を保つために行ってきた「誤学習の結果」です。
- ・児童生徒のぎこちない自己表現で発する「サイン」に気づき、その背景を探ることが大切です。
- ・日常的な「気づき」「特性の理解」「可能な支援の発見」が必要です。

困ったときは？ ●教育相談

- ・県内の特別支援学校には、教育相談部や地域支援部などが設置され、小学校や中学校への教育相談も行っています。
- ・教育事務所の特別支援教育指導員が、学校を訪問して、支援について一緒に考えます。
東部教育事務所 TEL 076-444-4569 西部教育事務所 TEL 0766-26-8461
- ・富山県総合教育センター 教育相談部 特別支援教育担当 TEL 076-444-6351

シリーズ2「対応編」の内容

- 発達障害への対応
- 支援の実際
- 保護者との連携
- 校内支援体制の整備
- 外部支援機関